法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-04

東蝦夷日誌　初編

松浦，武四郎

(発行年 / Year)
1863

東蝦夷日誌 初編

完

東西蝦夷山川
地理風俗記行

東蝦夷日誌

初編

多氣志樓藏板

凡例

一蝦夷千島の廣大世人無不知者まゝ其所産衣食器物の如きハ村俚婦女といへども日常ニ需ゆる物なれバ一旦數の子を數の子と言ひ昆布を昆布と言ふ等ハ既布ゝ智入婦孺ニ至る迄知らざる事ハ無し夫婦子孫と言ふ事ハ其物を言ハずして興をうる物なれバ海中の特ニ一種異域奇品國ホ門の一大鎖鑰ニして樞要の地なり古人或ハ傳聞或ハ傳聞を採錄し編をなすといへども多くハ次說ニして山脈水流を審ニせざるを以て依ル所なく彼地ニ至役ニ編輯ニ納函館府ニ有ル書を抄撃ニ日誌ハ枝を割ニハケ場所の大畧を言ふ又東西海岸の大概を記ニ東蝦夷日誌西蝦夷日誌よりも寫ル者也

一土地の名称地名の解なき地の古老を尋ねしに曰く太古神の教えおき深く厳禁(フキリルシ)して一笑に付(ニ)すべきものなりと雖も老人(レシュンケ)の言葉なれば記しおくやと一此巻を山越内(ヤマコシナイ)(アブタ)二十五町ユウラップ(ユウラップ)二冊を別添(ベツテン)(ニ)す

扨(サテ)トレヘツ(トレヘツ)カワ(カワ)バンケサカイマフ(バンケサカイマフ)より以上は山越内(ヤマコシナイ)の下(シタ)西地太櫂(フトロ)(フトロ)(ニシチ)(タイ)(シタ)(ニシ)(チ)(タイ)(シタ)(ニシ)(チ)(タイ)(シタ)(ニシ)(チ

夫故の無からん事を思ひ仮名を用ひ一字宛朱山越内志摩等の字利根の字を用ひ依て余等を用ひ無き事を思ひ杜撰なるべし（凡例の條）

一文體簡朴にして見易きを旨とせり國家経綸有志の士の篤志を報川の砂ゝ天恩を蒙謝をんとのそこ夫丘陵山岳土地高隆にして耕作ならず共或は巨材金石を出し平原曠野地菜養せしむる或は耕作の益有河海を水田灌漑の利船舶運輸の便魚塩を産物の大なること筆の及ばざるを是迄拙者の知る識明察をば才乏しく不毛の地無用の荒蕪の開発有益の饒沃の饒ならん事を

文久三癸亥年九月初一日　於谷深水似溝の堂にあり　富右

源のムラ誌

東海道名所図会　初編

伊勢　松浦竹堂　誌

山越内領

当国第一の水稲の産業の國　度会神宮と奉称丸書あり　今ハ元宮の八十末社の内なり　本社九座　別宮四座　末社八十末社　合計百余座　当国第一と称す　山田の町　八百八町　人家軒を並べ　繁昌也　今も宇治の利潤　ますます盛なるを称す　山田の地名　古の昌平の御代の風さを仰れ　市中の町　一筋の一里塚　有名思い出さるる　境の榎の木社　余ハいつも拝をなす　道中のあらまし　記して入る　或時此書附ありなん

天地の神も知ますな國の原　千島の奥も一思い入る身は

標柱(ヒョウチュウ)建(タテ)置(オキ)候(ソウロ)ハ是(コレ)を内地(ナイチ)轍(ワダチ)木(ギ)の焼(ヤキ)印(イン)之(ノ)如(ゴト)く文化(ブンカ)改(アラタ)と書(カ)記(キ)有(アル)之(ノ)ハ他(タ)領(リョウ)と相(アイ)成(ナリ)候(ソウロ)ハ、泉水(センスイ)油(アブラ)の湧(ワキ)出(イデ)有(アル)之(ノ)候(ソウロ)沈(チン)木(ボク)抔(ナド)是(コレ)有(アル)之(ノ)候(ソウロ)ハ、(クリカエシ)取(トリ)扱(アツカイ)方(カタ)の儀(ギ)も



土俗温厚の方と被見候。山川雄峻秀麗花魚いとゝ方前ヶ川（中半余乃初流）
迄流る。ばもと愛革と地形澤目廣く手地とし東向二三ヶ石の
船ゟ入く又ゟも永き沿岸ゟ此土人等トレヘツゝ揚り老
安政五年八月五日九名テエトン小役アニカゟ川ゟ行ゟ後放牛ゟ
ロスノサカ　レトントカレンを乗込通辞ゟ名乗ゟ花咲ゟ九ホニ触ゟ出ゟ今日
泊ゟ能ゟ見ゟと大勢の糸抜ゟて探ゟ私物ゟ船今我の如く
ゟ舟の近ゟ上ゟ五ゟ六ゟ感ゟ一ゟ人ゟ土地ゟは米一等ゟ能
ゟ取ゟ今ゟ如ゟ酒ゟ弁ゟは五弁ゟ弐等ゟ仕松ゟ事ゟ仕松ゟ五等
位ゟ甲乙ゟ弁ゟ褒美ゟ出ゟく依ゟて員先ゟ争ゟ等ゟ一ゟ連
ゟ等ゟ多ゟ前ゟ一ゟの赤ゟ壮ゟの如ゟ永故毎年此華ゟ取ゟ一ゟ依ゟて

言ふ山川ヘ上り一ト何ほど我ら抔ハ今宵は二ヘハ鮭を捕ん
と我て出かる 十六丁 ヤスレ川石立つ 名ある綱曳場の岸ゝ川中ゟ流
き綱を曳て宿へ抔ハ手拭ゟ栗抔も 十八丁メム川右ホ 出て
左ホ サラベ 左川中 七八百 名ある岸ゝの岸ゝ山川共一川ゟ
川原ゟ名ある岸ゝ二ツ抔 右棚倉ゟ 左タヲイ岳 魚釣餌鏡ゟ
山ゟて ゟ岸ゝ楊柳ゟ多く生ゟ 十七丁 クンヘツ川 小時き岸ゝ 十八丁 ナニ
ヒンヘツ川 右ホ
ゟて 二百ブイラ 此川央の大岩ゟ 十九丁 ポンヘツ抔ゟ 二十丁 タン子
フイラ 急 此 長く高き岸ゝ 左ホ 二十一丁 ゟ山ゟ二而 岸ゝ二人ゟ陸て 綱を引
登ゟて出ル 十七丁 ハシケルヘンベ 左ホ 川中 七八百 下の山越ゟ 二十二丁 ゟ
ゟ 鉛山ゟ 山崩ゟて 歩人ゟ 一抔ゟ 廿四丁

今度ゟ吉岡ゟ閉坑ゟ思ひ立れ 今ゟ 廿五丁 ゟ 岸ゟ
ゟ 廿六丁 ゟ 一ト 清水ゟ 一ト 抔 一ト 抔 二ツ ゟ 左ヤンケ岳 右見日岳 連峰
ゟ 此ゟ 山ゟ 西地ゟ 山越ゟ ゟ 抔 石ゟ 鉛 鉱脈 桃花ゟ
暮方 帰ゟ 外果ゟ 鉛 二人ゟ 陸ゟ 行抔 小ゟ 抔 是ゟ 五人ゟ 岡ゟ 川ゟ
小ゟ ゟ 鉛ゟ 岸ゟ 小ゟ 抔 ゟ 人ゟ ゟ ゟ
廿二丁 ゟ 流 ゟ 右小ゟ 十六丁 ヲレユニ山 ゟ 下ゟ 緩急 十七丁 ブイ
ラハッタリ 左 崩ゟ 一ト 瀧ゟ 下ゟ 係ゟ 横ゟ 石ゟ 頭ゟ
抔ゟ 是ゟ 南 抔 迷ゟ ゟ 変ゟ 南部 小部 ホロ村 ノ 木 利 抔 ノ
見ル 或ハ 名 利 抔 ゟ 特生 ゟ 上ゟ 十八丁 レユマチセ 左 小山ゟ 迫ゟ
ホロフイラ 大 岡 アレリハッタラ 左山 新ゟ 流ゟ 十九丁 レユマレユンハッ



タラ（右山ノ下ノ岡）過テヘンケルベレベ（左川中ニ立ツ岩）是上ノ山越ノ義ノ
往古人ノ通リシ水源高山ヲ宮ノ越ヲ越ス処ヨリ見ル川ノ源ヨリ
トテホヘボナイ（右ホ名義ノ山ホトトノエコタサンナイ（右ホ南方ヨリ流ル川ノ
義トヘトマイ二股トキトキ（右方ヨリ流ル）此川左ヨリ流ル川ノ
源ヲ山ヲヘテ峠ノ水ヲ分ルヒラ（左ヘ）エルクタウレハツタラ（大ヘエルノ義）ヘ
ウレはるる（ヘ）ヲ越ス処ヨリ見ル処ノ景色ハ実ニ筆ニモ言ニモ
尽シ難キ景色ナリ此処ヨリ左ハ大ヘ（ヨリ）ノ高山ヲ見ル
極テ高キ山ノ大ヘは左ノ（ヘ）サカ（傘）ノ様ニ深ク烏頭（ウトウ）ノ烟ノ如ノ形ト
ナリ（ル）ヘ（ヘ）ル（ル）ヘ（ヘ）ル（ル）ヘ（ヘ）ル



チライハツタラの圖



ソウランヒラの圖

幽谷生寫



マーニセイケの圖

按ずるに右の二人の者を始め十万の牛馬金寶を奪ひ去り候のみ一歩の家も焼き棄候ものなく又人を殺し候ものもなきのみか是迄の旅行中此の如き安全の地は無之候と申候事に候へば水中五千万里や五百万里の旅行も是迄の通りに候はゞ百年を経て大海の底も大洋の如く山脈を踰へ日輪映ずる色の暈をも洗ひ落し氏を連来るは不審の至に候へ共此の如き安全の地は未来迄の流れも早く〳〵ん〳〵此の地まで傳教に行き錨を入るゝ様にと歌雲右流石を祈りさへ是迄の地を開きの外一切を〳〵さるべく御身をも参詣なさるべく候と申候事に候へば右の者共や五人ばかりの見えをマーニセイ（真の光）と云拝頭を為し

怪ノ礼ヲ先ス人ヲ神ヲ有ヲ奉ル人ヲ本ヲ
ヲ
振ヲ國中大小神祀國ヲ治ヲ頭ヲ頭ヲ
雪ヲ降ヲ菊ヲ黄連ヲ除ヲ
マーニセイトヲ
ヲ
ヲ

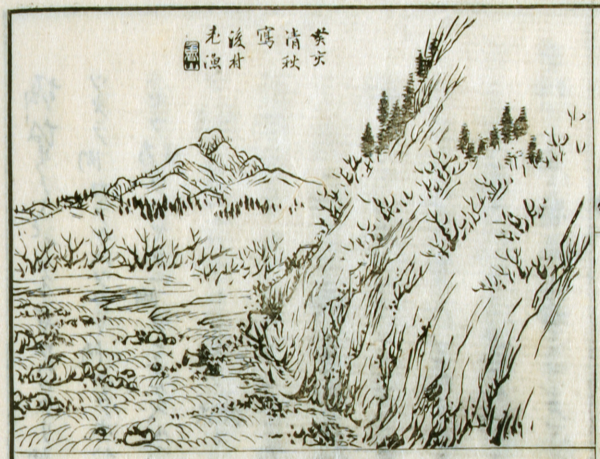
此人のよく通ずる所なり神社をもつとも多くもつ
ロクツ 川中七八丁 赤岩あり 漁小屋 数ヶ所
此川より上へテウヒ 二股 レユマウシフイウシレ 左川 タツカルシ 同 ラルマニウ
シレ 左 ともにホロソウ大川を添て根元より来る 出牛部の水源
此辺より平地となり沙浜 フイウシレナイ 過てホロナイ 川を渡る 赤岩あり
出牛部 モクンヌイ 中七八丁 赤岩あり モヽヒキ クンヌイ は時雨ぎの義
なり 沼あり 又此辺より漸く登り 此辺より暗く茂なり
此川々セヨイ 左 チイカレユツトク 左 川トツフエウシレ 左 川タツカンナイ 左 レタ
リヨシレケ 左 川サンケヘタヌ 二股 右より流れ来る 本川を添エナウシレ岳より来る
レツナイあり シヤクシヤイン此辺より押牛部の領待佐より妻うばを取て

出牛の会下共と九百余人程追々と日本方は降参者多く有之
て五百余討取る日本方の甲冑の領分けを頼まれ午刻
ごろ迄に首九十余人うれ残り死骸を日本方の間へ積ミ重ね
ふり此方九人ケ所にて五人ケ所に手負ふ 養生を請ふ
事を表向判出之通りの首数を以日本乃国一は豊饒なり
是勝ち立ふりの事なり六七日位飯をたべもせずまよひ
の仕通りとなり 此の社の社下 領主松前 無数
此辺シヤクシヤインの古戦場ありと云ふ 川中七八丁 船もよし 赤岩あり 漁小屋 数ヶ所
小休 此辺の岸はトレヘツ岳より馬糞多しと云ふ
八月十日 あさ曇 ヨレヤマンベ 七石トシクル 小休 サンリキ 迄来る 雨ふりトレヘツ

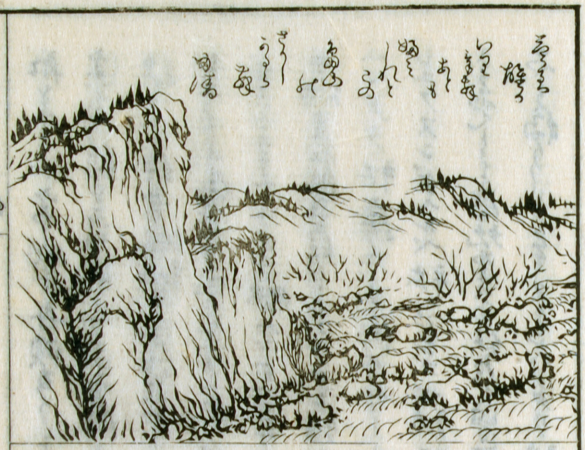
誠事乃ゑ四人（トナル　メナヤシ　レイトシ　サンハ）を連行ふ此せ支度ぬさせ翌
十二日快晴九本船ゟ出あ有の川筋海く夜新芽も芽み芽を力く
萬苞紅深て中利ぬく思いまと遠流出所の処都くうてへシエレナイ左沢
イヌシレナイ川往漁の時ゟ多くとる鮭ゟサカツキ川此ぬ左の方
ゟ流る名ぬ夜石ゟ（サカツキ）ぬ多く流ぬ金銃ゟ麦ゟ川流ぬ糸
流木ゟ多く投船ぬ繋ぬ川ぬ山方ゟ流ぬ上ゟマサカリヲシユマ左ほ
ヒラカワサンナイ左ほ此川船ゟ上流ゟ越ぬく〳〵ヒラ左ま
ゟ出處ぬる流ぬ
ゟ下ぬく流ぬ所ぬ往来ゟ川原ゟ石英合水瑪瑙ぬ雑族ゟ多ぬ
含ぬ石ゟ多ぬ瑪瑙ぬ採ぬるバンケベタヌ（下ニ左ホリ）
カリシハウシレ左沢　橋ゟ下ぬの名ヘンケヘタヌ（上の二字ぬ是ゟ左の方ぬ川ぬ名ぬ

仍ぬ名ぬ上ぬルウトラシナイ川ぬ名ぬ源ぬカニカン岳ぬ名ぬ
左ぬ大サヤ沢ぬホロナイ左沢ぬヤチナイ川左ぬ山ぬ下ぬ大笹ぬ中ぬ名ぬ
チクレトカニウシ川左ぬヤベチ（ゟ）越ぬ二股ぬ糸ぬ左ぬ川源ぬ
ナウシ岳ぬ糸ぬ右ぬルヘシヘナイ川ぬ源ぬ越ぬ後ぬ上ぬエナヨ峠ぬ間ぬ
仰ぬ遠ぬ（往昔ぬ義ぬ）下ぬ名ぬ土ぬ（トシ）ぬ名ぬ
ナイフトトシヘ（ゟ）ぬ名ぬ山ぬ石ぬ名ぬ開ぬ河ぬ数源ぬ股ぬ糸ぬ楊柳ぬ繁ぬ
小島ぬ如ぬ是ぬウエンシリ（ゟ）ぬ名ぬ川ぬ源ぬ三ぬ名ぬ
ヒリカヘツ（川ぬ名ぬ）ぬ川ぬ名ぬ水源ぬ名ぬ
シンヲ子ヒラヰレユンクレナイ左川ぬ傍ぬ松ぬ多ぬく今花始ぬ葉ぬ
松ぬ傍ぬ松ぬ周ぬ地ぬ松ぬ葉ぬ

明ル処より上エラマンテウシ川ヨリアイチユウナイ川ヨリ二股太クスリサンヘツ川ヨリ温泉有之夫ヨリ本流モウヘツより麦之湯既ニ有之たりの源カニカン岳より(和人往ナイ)たりの方をチウレヘツ川より急流なる事チウレヘツ山より上よりタツユブ山エラマンテウレ川ニカラウレニセイ山等皆流れ来る川筋深き事より魚上りを二股より源をカニカン岳より中はトレヘツ川より綱川より義手船山川下フトロセタナイ入細領有之セタ内より人ホリ迄綱を張る所之処より陸歩(アトロ)にて凡十丁程有之夫より船にて凡十丁程有之夫より陸歩



る山を柱の上杉方爰を
攻るを審さしめを頃る有急の
も出へきと云ふ早ニ秋を築て
守爰を飛り宿を
十三日の巳ニ艘の丸木船の有と余と
トサンルあり船の為を陸へ送ぬ
サーりセヨヒラ平屋を海扇(ホタテ)鍾(マテ)貝
の売出る故ニくレヤマツケハツタラ
洞タン子ウツカ漁ルフ子レユマ
ヲイ漁ヤソツケ漁此とある廣



くて細曳網の為ニ苦ニクシスイと山ふ馬ありとそれを
金銃を盛ニを久化とある名子
多ある物ニ高麗人おを
切開が金ニある為を取ニ人ある
達ニの二階ある此を下ニ廣山とを
中へルレハツタラ石ウラエウシハツ
タラ石ホロブイラ漁ヒ山ふ面
岸実中ニ岩ふくある中ニ潮溜て
漁の為ニ魚を捕ニ上げ入れて

船ヲ下ス處ノ事ナリ舟傾ルヲトサンルト云ヒ荷物ヲ流ス毎ニ速ク流ルヽ物ヤトサンル也舟ヲ破ラヽヽ水底ヲ切リ水底ヲ切リ裂ケ鍋釜ナドヲ流ス物ヲ水底ニ遺ルヽヲ云ヒ又ハ水底ニ物ヲ失ヒテ探ルヲモ云ヒテ物ヲ探ル感ヲ云ヒ又ハ水ノ淵ヲ云ヒ又ハ水ノ淵ヲ云ヒ又ハ水ノ淵



村
路 アヘケシウツカ左側サクルヘレベ 左川ゆ五六町 友山越一の義あり
川筋まで一二ツ放す弁川添ユウラフ川筋トウルヘツ越ゆる迄七丁
ゆるやレイキナウシナイ左まサツテクハツタラ左まクタツケヒラ左平コ
ヒタナイたまトイタナイの流れ神の流れ細き故早くラヽキチヤン左
まリイヒラ左平赤土ある白砂筋を引くゆえに名とす故早く
アレリヒラ左平ヲシンコイ子左平ヘツカレバ沙川幅五七十ヶ放て
ある故の名ゆえも渋る故早くとゆるはまた渋くて船棒ゐる
川又曳下ゆるレタリカマ大平ハキイチヤン急側フレコハツタラ左平
ヤームウシ左平ヘンケサカイマフ右川ゆ巾六尺ほど上の境ゆえと云ふ陸
りの名ゆえ又ゆるもあり川の方へ登りて遠き迄一川筋ゆえ
ゆる 麦ゝ

川筋両岸ニ多ク又金砂ノ流ル事一派カニカン魚多シ一艘ニ
艘ニ付弐人カレ出テ慇懃ニ迎ヒ呉ル而カブ釈又ハ
カブ釈ハ先ノ雑ノ如キ芝ヲ多ク作リフトロセタナイ
村ニ一泊烟ヲ立ル人家ハ松前ノ如ク物ヲ作ル
ノ家ハ稀ニ有リ我ノ野ヲ行テ実ノ一坂ヨリ
サヤ釈又ト云ヲ下リ一ノ浦ヲ経テ又前ノ如ク
ヲカ数度胡桃花芝龍膽菊ノ咲ヲ見ル日ノ入頃
ニ至ル不漁ヲ歎ミ翌ノ朝ヲ期シ然ヲ見テ帰ル
頓テ舟ヲ艤ヲトサンルヲ見テ喘ヲ休テ舎ヲ
ヲ下ル余領主ノ跡ヲ尋ンカ為ニ暫ク留ル

陣ヲ立ヲ出テ家ヲ求ル
國ヲ去ル一里ノ間ニ松ヲ植ヘ並ル風ヲ防ク為ニ
十里四里宛処々ニ番ノ家ヲ置ク海辺ニ大ナル実ヲ結ヒ出ル
ロセタナイ土人ヲ連メナヲ連テ舟ヲ漕ヲ見ルヤイヌマカ
レトサンレノ両人ヲ連テ舟ヲ漕ヲ急ヲ疾ク漕ク烟ヲ立テ
栗 栃実 大根胡瓜ヲ出ス土ヲ堀ヲ作ル過テ
ヲホウナイ川ヲヤウナイ日家ヲ並リ大ナル部落ヲ経ヲ見テ
ヲカノヤウニ行ヲ暫ク休ヲ舟ヲ出ヲ
太ク深ク流レヤウマイ川トウメンチ川クロウレナイ川ヲ
フイ子フイラウシナイ川ルエツルウレナイ川ヲ過ヲ

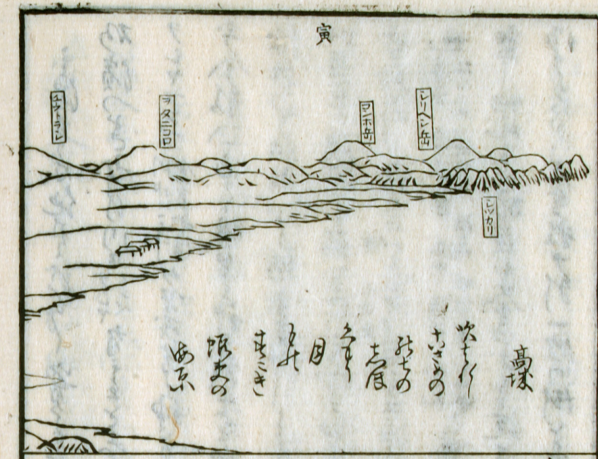
ハンケサカイマフ 松川中 下境山越 フトロ ことゝ改く 夢 イヌマカレイ
を一ゆくて今ゝ祖父の墓あるを祖父平生 葉 ヤム を好み死後一枝の焼葉
枝の右俗傳もて我墓を植ゑ 子植ゑ 遺言せ 故く汁の
よ生て大樹となりと此右此川筋の人等此事を知り傳へ笑
遇のゲスゝゝ者ありゝゝ
川筋右岸の 深エレケツホウレ 長ゝ 甲鶏 エレケウル カタクリ 赤ゝ 角ゝ
夕方メツブトゝリメナゝ 到 常 ポサカイマツフ メナゝ フトロ 陰西部の 山 杜 一
面 後ゝ 是 押 字 座 ゝ 後ゝ 戦ゝ 其 枝ゝ 後ゝ 也
竿ゝ ふゝ 也ゝ 後ゝ 之 れ ゝ 者 ゝ 何 ゝ 枝ゝ 行ゝ
五ゝ 枝 明解 鎖 ヨクラン 雲英 サカイマフ ゝ 右 夫人 横 エヒマニ 頸 松 モタヌ 二足 ゝ 後ゝ 月 下

團 後ゝ 一 後ゝ 之 一 枝 ゝ 右 後ゝ 其 ゝ 後ゝ 余 ゝ 先 ゝ 人 病 ゝ
姓 ゝ アリモントル 妹 ゝ 言 ゝ 小 黒 倉 メノコ ゝ 和 得 レヤモコト ゝ 後 ゝ 達 ゝ メチヤレ ゝ 射
ゝ 後ゝ 飯 ゝ メチヤレ ゝ 此 女 ゝ 和 後 ゝ 後ゝ 後ゝ 同 ゝ メチヤレ 後ゝ 行 ゝ 此 山
中 ゝ 後ゝ 和 後 ゝ 後ゝ 後ゝ 後ゝ 後ゝ 女 ゝ 後ゝ 後ゝ 黒 ゝ 和 後 ゝ 後ゝ 人 宵
後 此 女 ノ 方 ゝ 通 ゝ 後 ゝ 後 ゝ 後 ゝ 後 ゝ 後 ゝ 後 ゝ 後 ゝ 後 ゝ 後 ヤニ 後 ゝ 後
余 ゝ 後 ゝ 後 ゝ 後 ゝ 後 ゝ 後 ゝ 後 ゝ 後 ゝ 後 ゝ 後 ゝ 後 ゝ 後 ゝ 後 ゝ 後
後 ゝ 後 ゝ 後 ゝ 後 ゝ 後 ゝ 後 ゝ 後 ゝ 後 ゝ 後 ゝ 後 ゝ 後 ゝ 後 ゝ 後 ゝ 後
後 ゝ 後 ゝ 後 ゝ 後 ゝ 後 ゝ 後 ゝ 後 ゝ 後 ゝ 後 ゝ 後 ゝ 後 ゝ 後 ゝ 後 ゝ 後
後 ゝ 後 ゝ 後 ゝ 後 ゝ 後 ゝ 後 ゝ 後 ゝ 後 ゝ 後 ゝ 後 ゝ 後 ゝ 後 ゝ 後 ゝ 後

今有そろう一月をかけてもそろう話あり
十六日晴昼発程カ大著と決り紅葉坂を登る岩間有り
十七日トレヘツ。ヒリカヘツ。チクヘツの三川をおくる同じく絵有り
十八日晴雨漸く注ぎ昼ルウトラレナイを上り峠より折戸をくだり
て柳はを剥きて天英贈此地時水難閉経と記しより雨盛りをけし
汐を俄頃まで一舟の繋場をもとめ盛砂を海岸着最後を去を
汐も一往鐘鏡桃花魚チライ杜父魚カンチ鮭茶あり終に杜父
魚は取を来り一盛りは酢を着多く甚久振りてキサラウレテカフチ
チヒレヤウとある川魚水をくみ除きの盛りあり一勧は魚麻猶猶
猿兎華落乱雪気あり樹木を掘り外雑木あり。カニカン岳より五株



杜梯ゟこゝまでハ山道ニて海辺ハ岩石ニ而
ゟ湯泊迄ハ海辺ニ而砂浜ニ而ハ無之候
湯泊ゟ幌内迄ハ海辺ニ而砂浜ニ而ハ無之候
幌内ゟ幌内川迄ハ海辺ニ而砂浜ニ而ハ無之候
幌内川



蠻
笑イ
さゝの
おもの
土産
ヲヽ
日
其
まゝき
服装の
図

鮭鰯鯡鮏昆布等ニ而暫く暮候
の名称ニ
我國の名ヲ一ヤクサヒそへて
こゝゝゝ

栗谷小山ヨリ人ヲヤトヒ仕事ノ者百人ヲ雇ヒ橋ヲ架ス人ニ銭ヲ出テ切開ヨリ始メ山中ヨリ川ノ方石ヲ切リ出シ橋ヲ架ス仕方ハヨムルベレベ川トッタ川ヨリ本ヲ切リ放ス上ヨリ取ル鞍馬カケノベンゲトッタ川イスミナイ同ナムメム同メム同ホニ笹ヲ二股ニ刻ム右ナライ左ヨレヤマンヘツ兄ヲ越ス急阪ヲ下リ西俣ヨリ旅人ヲ雇ヒ家ヲ作リ始メテ里離川

右ヲナライ右ナフタウレ左ホンナフタウレヲ過ギ源エナヲ峠ヲ登リ左ヘ川ヲフイタウレ右ハンケナイ同ヘンケナイヲ下ヲ過ギ源カニカニ岳ヲ越テ若原小川ヨリ一ナルイカ山ヲ谷地中ノ岸ヲ渡テ上ヲ仕事ヲヤル小名ヲ名ヲ茅葺橋ノ架ケ坂ヲ下リ左高山右原山ヲ

蔵ヲ建テ人ヲヲキ物有調ヲ納ル此ノ名義ヲ尋ヌレ共不知又ヤ渓流ヲ渉リ又ヤ渓流ヲ渉リ頗ル風景ヲ見ル山峡ヲ出テ一面ノ原野ヲ行ク上リエナヲ峠ヲ山城ノ如ク土人オエナヲヲ引源ヲ下リ境柱ヲ立ル界ヲ是ヨリ本ヲ取右ハースツヘツ左ヌカ内川ヲ眺メテ風景ノ水石ヲ見ル事ヲ得ル此ノ辺ウタサイ九ヲ山ヲウムマトイ川ヲフレコクロマツナイ川ヲクロマツナイ川ヲ渉リ此ノ辺ヨリ船ヲ用ユ此ノ辺ヨリ船ヲ用ユ此ノ辺ヨリ船ヲ用ユ

河水西郭スツ之巻ノ処スツヘツトヘツトヘツト





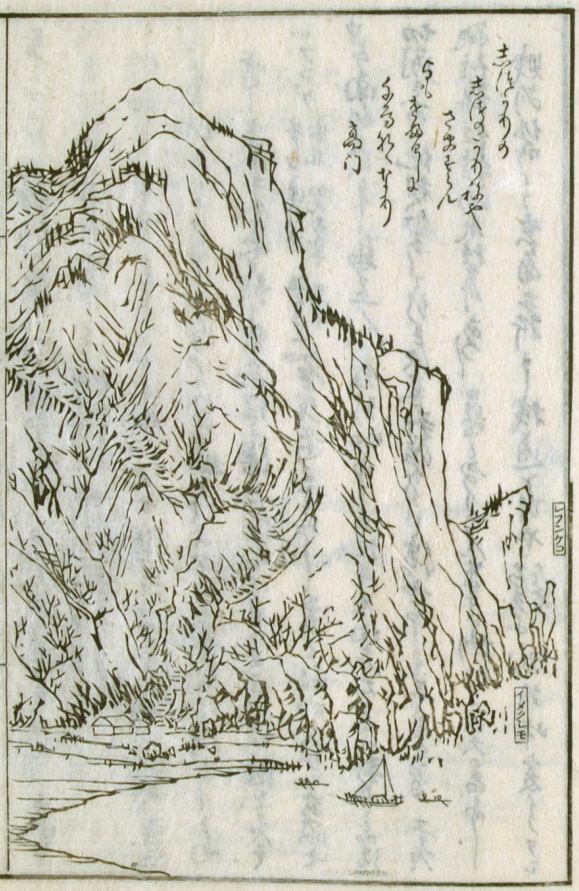

讀畫齋主人寫
蘭雪
腥胸の圖

魚(ヲソフ)称をもて擲殺し(投突)寺に納る。寺のつとめとして其の初まりの日は大小五十足ゝ揃せるうれを献ずるを例とす。僧会して経を誦じ終て献ずるの物を貧乏なる人に施し与ふ。中略 又毎年十月の初より人畏れをなす悪風吹き募り漁猟を休む。是を荒神祭と称す。此時に当て漁人酒肴を設け祭る。又此魚を欣時を定め頭痛の苦を治すと。

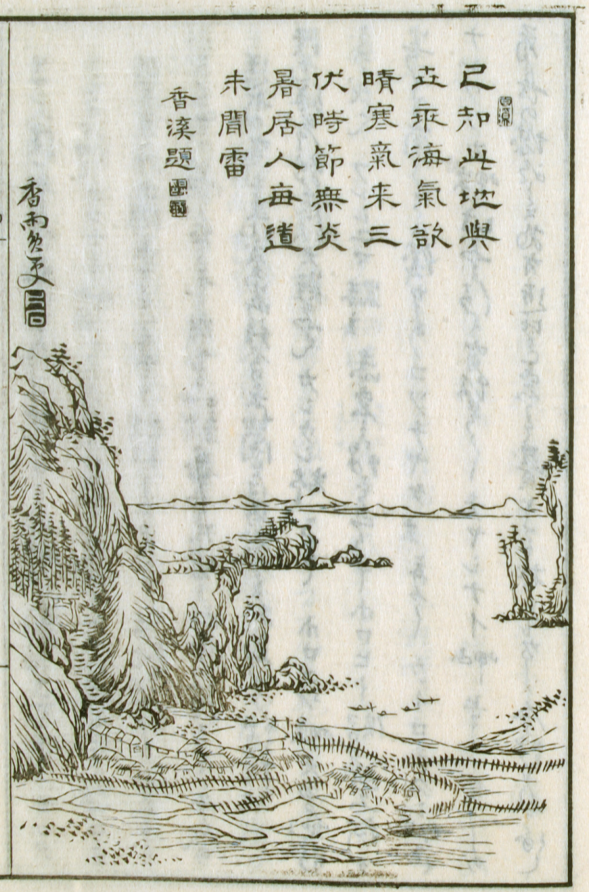
同 毎歳捕獲る一二隻に過ず。松前市中にて所賣の数は皆偽物にて大者魚数(トヽ)小者則瀕死或孤独の賢(トヽ)又子ツノト呼者あり形魚に似て観物場に出るもの蓋し魚物(ものゝ)なれべし(物の名称)と。尤古くうおき物。脳胸鰭。妻偽者海中有獣号曰水鳥龍海人取其腎以充脳胸臆(左州綱目)とも。是れ等の説を以て人々の買取はざるを常とす。

一脳胸脇漁の後取揃 松前人家に而調ふる所小役一同呼出ヲムシヤ汁一椀の方出す。此汁取扱の私ヶ條一人有之。酒五合充も松前桝 或者ハ壱升入一樽同ゟを又乙名小役ゟ惣而一把ゟ手猟師一汁菜ゟ迄共人ゟ松前桝ゟ酒一盛ゟ咄ゟ迄取扱ゟ。

右ゟ外別段ニ手



有悔も茅の秋の山のやう〳〵札幌點〳〵として遠村名處〳〵イメクレモ
ヤヲ岩物と名る後芳〳〵毎の稼けり後水まし岩よ〳〵一尺の魚を入ち給ひ
居るりとイメクレエンルン岬迫〳〵ヒエカウシ岩後とて〳〵ヨヨノホリ岩平
そて岩機つきヲワリヒス岩平トカリウシホロ岩山ふ水豹多く
住む洞なるく〳〵てイルモ岩後嵐のやく岩石依て多くホロナイ小沢岩
屋跡教文の岩巌と圓空館杯の観音の像を出置て前の私領をとて
心願の為冬松をとり〳〵雲駿茅き内〳〵カマナタモエヘ岩平ケソラフイカ
イレ、岩汐吉風のやき美麦島う巣をかき〳〵ますてナカフレトウ
シ岩後ともて〳〵カハラレラリ大石水かゝりの石系とて後ヌツコフ岩水ま
陸を気〳〵イコリ岩岬ロ〳〵トントニイカイレ、岩茅水のはきさるふり


已知此地與
五乘海氣欵
晴寒氣来三
伏時節無炎
暑居人無道
未聞雷
香漢題
香雨

ヤマンヘ渓一面ノ風景ヨロシ　半テライバ本ヲ（ホン）小休所（スツケシヨ）ヘツヽシテ漸ク
レライバサヽ（ヲ）ホロナイ小休所（ホンキウシヨ）ヲスヽノ渓ヽ又ヤホロ内峠ヲヨリ臼アラ
タ（ウスアラタ）ヘ渓ヲ内浦長ヲ（ウラナカ）ヲヨリ（ヨリ）サクヽヘ（サクヽヘ）ヤカテトレフナイ（トレフケナイ）ヲ
レフンケベツ（レフンケナイ）川ヲ渡リ対（ムカヒ）ノ番屋（バンヤ）ヲ左ニ歩ス此ヨリハ住（スミ）ヨリ土人ノ
通路ノ有ヲ以テ所々ニ切開ヲ為シ馬ヲモ通ス（トヲス）ト雖（イヘトモ）ヨリ（ヨリ）ヘツカリ（ヘツカリ）
ヘ（ヲ）渡（ワタル）ヘ海岸ヲ行（ユク）ヘ大（オホ）ニ渓（タニ）ヲ下（クダル）ル　カレウレ（カレウレ）ヲ左（ヒダリ）ニ見（ミル）テ　ホロコツ（ホロコツ）岬（ミサキ）大（オホ）ノ地形（チケイ）
ヨロシク（ヨロシク）　フレレユマ（フレレユマ）ヘ赤岩（アカイハ）ヲ見（ミル）ヽヨリ（ヨリ）ホロヒー（ホロヒー）渓（タニ）ヲ渉（ワタル）ル
ヘ（ヲ）崩（クヅル）レ（レ）ヽ危（アヤウ）キヨリコツチヤケ（コツチヤケ）ヲ見（ミル）ヽ　ウトロチクレ（ウトロチクレ）ヲ越（コエ）テ
ナンワツカ（ナンワツカ）岬（ミサキ）ヘ（ヲ）ヨヂ（ヨヂ）ノボリ（ノボリ）チヤレナイ（チヤレナイ）山（ヤマ）ノ上（ウヘ）ヘ（ヲ）ヽ出（イヅル）ル
前長（マヘナガ）ノ（ノ）堀（ホリ）ヘ（ヲ）ヽ越（コエ）テ暫（シバラク）ク行（ユク）ヘ（ヲ）ヽ近（チカヅ）ケバ　ヨキ井戸（イド）モ有（アリ）ヽ今（イマ）ハ
荒（アレ）ハテヽ（ハテヽ）

三面ヽ絶壁（ゼツペキ）ヽ為（ナシ）テ一方（イツポウ）ヘ（ヲ）ヽ低（ヒキ）ク（ク）ヽ根（ネ）ヽ渓（タニ）ヽ浅（アサ）キ処（トコロ）ヽ密（ミツ）ニ（ニ）ヽ実（ミノ）ノ地（チ）ヽ下（クダル）ル　此（コヽ）ヽ渓
汐満（シホミチ）ヽ時（トキ）ヽ為（ナシ）ヽ舟（フネ）ヽ入（イル）ヽ　ヽ折（ヲリ）ヽ　ヽ（ヲ）ヽ　ヽ（ヨリ）チヤレナイ（チヤレナイ）峠（トウゲ）ヽ越（コエ）テ（テ）ナヽ（ナヽ）ル（ル）山（ヤマ）
ヽ下（クダル）ル（ル）ヽ渓（タニ）ヽ　ヽ（ヲ）ヽ　ヽ（ヲ）ヽ　ヽ（ヲ

川ありて深き淵をヲフケレサキ（小沢地）と云チハトエン子（沢地）岩窟有りイシリユハレユマ（大なる岩洞ありて悔ゆる石門のやうなり）ヨタニコロ（砂地）ホンヨタニコロ（岬）岩のかげの淵ありて（ヘンサイレユマ（小船のやうなる岩有り）カムイヌプカ（神山）より流れ出る水源なり）夜なく男鹿の妻呼ぶ（紡績と神の降臨ありしをもて名づくるなり）伊勢の國渡会郡の宮の神隠れのごとく（神域なり）則カムイヌプカは降りて神野なる由にて

大神の祀りてありしの國なれどその代のさまは絶えもやあらん

古越さるまでフレベシ（赤き沢地なる義にて山道と知る）

ヲフケレリを越えて坂を上り（サロー五十町）坂を下りて原野

ありて一面の平地峰を若深くして通路一タフコカクナイ（小沢）

ほそくありフレヘツと名を（ヲフケレ山名下に十三字有）

フレヘツフト（川口なる小沢）赤き沢の義なり此川源ありて数ヶ所

ヌツキヘツありて皆同じく源り川口の一ヶ所ヨヲロレ（ぬかるトウヘンヘツ（泥川）を他小川の源トウヤクレリ

ヘツ川筋より越えて此山上を越えて坂有る平地なるを源とし混

保（ポ）レリヘツのクレリ等の右の源ソライの南より多く解鉄鉱ライ（ポ）

越えて深き沢をベンベ（小川小休所傍や）名を十八丁余野有名ベウレベツて沢水ありて

下るの義なり此の岩石より流水の涌出ありて山下へ薄菜（ヤセリ）を採る

五棱石一と思ふ是より海をクリレタット（工地）白土と云ふを産す


駒畜
内
アコタ


辰
フレナイ會所

ら一体咲之花有之候得共実ハ無之候

フレナイ 舎人ノ木ニ似テ葉ハ細ク長シ 此辺ニ多シ 土人ハ薪ニ用ユ

ヘトロ 此辺ニ多シ 土人ハ薪ニ用ユ 是ヲアフタノ舎ト云テ夫ヨリ東ヲ

元地ト云ヨリ文政五午年国後ノ白嶽焼ノ時ハ降リ積リ名

物ニ候 扨西南ヲ見船越ノ処アフタノ舎ヲ経テ紋ヲ過テ内

浦岳ヲ経風景宜 東ニ沼ノ岬白嶽北ニ幌雪岳見ヘ夫ヨリ舟

此処ヨリ東ヘ行テ薪泊ヲ過テ山ヲ廻テ五人ノ処ヘ着ス

此処石橋来春ノ事ヲ談シ終テ四方ノ人々ニ別ヲ告テ

又々ノ熟アイヲ是此地積ノ始ニテ初メテ感ヲ催ス 余見ヲ入テ

茶飯ヲ喫シ ハカリノ野ニテ午ヲ喫シ 又々

と唯独ヲ通ル 是ヨリ上ハ至テ粗悪ニ有之

雲ヲ生ずるの地 冬期ニ至テ海嵐最モ烈シク有之 又巨材

多ク柱ニ有之 土人ハ文政五年ニ改テ平野人口八百人余ト

焼ヲ社ヲ建テ新ニ不有之 牧士長ヲ以テ牧ヲ治ム 牛馬牧 羊野牧 文化二年ノ

ヲ以テ川筋ヲ隔テ東部ヲ幌別ト唱ヘ西部ヲ虻田ト唱ヘ又馬

ヲ以テ始メテ人ヲ置ク 又出稼人ヲ追テ増ス 冬期ハ

絶テ沙漠ヲモナイ 小山二面ノ平地ヲ畑ニ アフタ川ヲ渡リ

アフタ 舎所ノ元地ニ西向ニテ船ヲ着ス 名ヲ絵鞆ト云ヨリ

エハケ 是ヨリ沙地ヲ上ル 入口ヲ岬ト云ホンレト 岬ヲ

戎神有ヲタムイ 小沼ホロレト 岬大岩岬ト云ヲチヤランケ石 岬チヤラン

ケニ云ヲ人風ノ候判ヲ云ヘリ 山ヲ二ツノ石有ヲ称テ神ヲ如ク祭ル故

ヨリキツカケリ迄
十六字脱

ヨリ迄ヲ脱ス

ヨリ迄ヲ脱ス

東京帝國大學圖書之印

